

令和元年 10 月 3 日

令和元年度農林水産省の熱中症に対する取組

農林水産省では、農作業中の熱中症事故防止に向けて、5月の春の農繁期や7～8月の「熱中症予防強化月間」、随時気象状況に応じて、農業者へ熱中症の予防のための留意点等を周知するため、下記の取組を行った。

■ 各都道府県等への通知の発出（別添）

農作業中の熱中症予防のための留意点について、都道府県、関係団体、企業等に対し、通知を発出し（5月9日）、夏季作業で特に注意が必要な事項について、農業者が集まる集会及び行事等あらゆる機会を利用して幅広く周知し、熱中症予防に取り組むよう依頼を行った。

また、高温や台風接近等の気象情報を踏まえ随時発出する技術指導通知において、暑熱環境下で作業を行う場合の熱中症対策について注意喚起を行った。

■ メールマガジン等を通じた注意喚起等（別添）

農林水産省が農業者等宛てに発行するメールマガジンや Facebook 等を活用し、農作業中の熱中症への注意喚起、予防対策等の情報を提供した。

特に、気温が上がった7月下旬には集中的に情報提供を行った。

■ 民間企業と連携した啓発

熱中症予防声かけプロジェクト、(株)大塚製薬と連携してリーフレットを作成・配布し、行政機関や農業機械メーカー等による啓発資材を活用した「声かけ」（注意喚起）を促した。また、これまで作成したポスター、チェックシートについて、誰でも容易に活用できるよう、農林水産省のホームページにも掲載している。

■ 熱中症研修の開催

農林水産研修所が都道府県担当者等を対象に、熱中症発症のメカニズムや予防対策のポイント等に関する理解を深めるための研修「熱中症及び作業環境対策コース」を開催した（6月7日、農林水産本省において開催）。

▶ 文書による注意喚起

発出日	文書名	施行先
5月9日	農作業中の熱中症対策について（生産局技術普及課長）	都道府県（地方農政局等経由）、関係団体
5月14日	今後の気象状況（高温、少雨等）に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（生産局農業環境対策課長等）	都道府県（地方農政局等経由）
6月26日	夏台風の発生・接近及び大雨等に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（生産局農業環境対策課長等）	〃
7月31日	高温等に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（生産局農業環境対策課長等）	〃
8月8日	台風第10号の接近に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（生産局農業環境対策課長等）	〃
9月4日	秋台風の接近・通過に伴う(台風第13号等)農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（生産局農業環境対策課長等）	〃

▶ メールマガジン、Facebook等による注意喚起

発出日	名称	対象者
5月17日	e普及だより	都道府県の普及指導員
5月29日	農業女子PJメール	農業者
6月10日	農村ふるさと保全通信	農業者、関係団体
5月22日	農水省・農業経営者net	農業者
5月27日	全国町村会の町村関係者専用ページ	市町村関係者
5月31日	農業担い手メールマガジン	農業者
7月30日	農水省・農業経営者net	〃
7月31日	一農ネット便り	〃
7月31日	農業担い手メールマガジン	〃
8月15日	農林水産省facebook	消費者、事業者、農業者 等

MAFF 農林水産省 maff
8月15日

引き続き荒天に警戒してください。

【熱中症に気をつけましょう！】

気温の高い日が続いていますが、気象庁発表の1か月予報（8月17日～9月16日）によれば、向こう1か月の気温は全国的に高く、特に東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みとなっています。

農林水産省では、農作業中の熱中症対策として、夏の農作業で心がけることや熱中症が疑われる場合の処置などを掲載しています。農作業中の熱中症予防の参考に、ぜひご覧ください

農作業安全対策（農林水産省）

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

夏の農作業で心がけること

1. 日中の気温の高い時間帯を避けて作業を行いましょう
* 朝7時～10時頃までの涼しい時間帯に作業を行い、日中の暑い時間帯は作業を避けましょう
2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう
* のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、
* 毎10分～15分程度を目安に水分補給しましょう
* 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1ℓの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給剤タブレットを摂取しましょう
※塩分補給剤は必ず水で飲むようにしてください
* 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう
3. 暑中予防グッズを活用しましょう
* 野外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、室内では扇風機やスポットクーラーなどを活用しましょう
4. 暑熱対策グッズを活用しましょう
* 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声をかけを行うなど、定期的に確認がないか確認し合うようにしましょう
5. 暑熱多発の環境を避けましょう
* 暑熱指数(WBGT)計、湿度計、温度計で、作業環境を確認しましょう。
* 作業場所には、日よけを設ける等できる限り陰で作業をするようにしましょう
* 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、暑い時期、早い時期から暑熱指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう

【農林水産省Facebookでの周知】